

**Nishiura
Mari**

**Morita
Minako**



~私たちの笑顔がおいしいいちごに繋がっていく~
みらいいちご miraiichigo

森田 皆子 西浦 万理

■address 香川県木田郡三木町大字井上
西山田467

■Website <https://www.instagram.com/mirai.ichigo/>



DISCOVERY

SHIKOKU ZAIMU KYOKU

2026, May. @三木町

農業未経験者の二人が、大好きないちごを育てるために縁もゆかりもない三木町に移住。温かく受け入れてくれた地域の方たちに恩返しをしたい！！そんな思いから仲間とともにいちご尽くしのマルシェを開催。手探りで始めたマルシェも3回目！！そんないちご愛あふれる西浦さんと森田さんにお話を伺ってきました。

 **なぜ、農業を始めようと思ったのですか** 

私たちはもともと大阪で医療機関の転職斡旋をする企業の営業職として働いていました。上司と部下という関係でしたが、お互いに信頼関係があり、「この人となら新しい挑戦ができる」と思える存在でした。前職も、多忙な環境ではありましたが、転職という人生の大きな転機に関わる支援や、医療機関が抱える人材課題の解決に携わることができました。成果が数字として表れる中で、人の役に立っている実感を得られる、非常に充実した仕事でしたが、30代を前にして体調面に不安が見つかり、「このまま今の働き方を続けられるのか」「もっと心からやりたい仕事は何だろう」と考えるようになったんです。そんな時、森田から「一緒に農業をしてみない？」と誘いを受けました。(西浦)



最初は農業の知識も経験も全くなく、身近に農業従事者もいなかった私にとってその誘いはまったくピンときませんでしたが、実際にテレビで見て興味を持ったいちご農家さんを訪ねて話を聞くうちに、「自分たちの手が届く範囲で、地域に喜ばれる仕事をしたい」という生き方に強く惹かれました。

そこから、“自分たちの好きなものを育てよう”と決めて、いちご農家への道を歩み始めました。(西浦)

なぜ、移住先に三木町を選んだのですか

私たちはもともといちごが好きで、その中でも、『“さぬきひめ”を作りたい』と思ったことがきっかけでした。

私たちは西浦が京都府出身、私が広島県出身のため西日本を中心に移住先を探していました。そうした中で、三木町の企業が、さぬきひめ(栽培品種)の研修を受け入れてくれたこともきっかけとして大きかったです。栽培技術だけでなく、地域とのつながりも三木町の研修先で広がっていきました。(森田)
※“さぬきひめ”は香川県を代表するブランドいちご

1人移住



新規就農

農業未経験



ゼロからの挑戦

移住前はちょうどコロナ禍で、2か月に1回ほどしか三木町へ来られなかったのですが、その間も地主さんや行政の方、地域の皆さんが『女性二人がいちごをやりたいらしいよ』と周囲へ話をつないでくださっていて、訪れるたびに、様々な関係先の方を紹介していただくなど、移住前から地域全体で受け入れてくださる雰囲気を感じていました。(西浦)

三木町は、いちごづくりだけでなく、人とのつながりを大切にしながら挑戦できる場所だったので、ここで頑張りたい、挑戦したいと思えたんです。(西浦・森田)

“さぬきひめ”の魅力はどんなところですか

私たちは全国のいろいろないちごを食べた上で、「さぬきひめ」を作りたい」と思って香川に来ました。
最近はいちごも“大粒で甘い”品種が人気ですが、私たちは甘いだけではなく、酸味や香り、果汁感のバランスがあるいちごが好きなんです。
“さぬきひめ”はそのバランスが本当に良くて、何個でも食べたくなる味わいがあります。
それに、シーズン終盤まで味がぶれにくいのも特徴で、11月後半から6月中旬頃まで美味しくいただけます。
直接取引している飲食店さんにとっても、味のぶれが少ないっていうのはすごく重要なことかなと思っています。(森田)

香川県の方にとっては当たり前の存在かもしれませんが、県外から来た私たちだからこそ、“さぬきひめ”の魅力をもっと伝えたいと思っています。

朝採れいちごは、スーパーで売っているいちごとは全然鮮度が違うんですね。その日採れたてのいちごの美味しさ、みずみずしさっていうのは農園で買うからこそ感じていただけるって私たちは思っているので、農園で直接販売したり、飲食店さんとコラボしたりしながら、「こんなに美味しいいちごだったんだ」と地域の方に知ってもらえる、感じてもらう機会を増やしていきたいです。(西浦)





🍓 マルシェを始めたきっかけを教えてください 🍓

きっかけは、三木町の研修先で知り合った地元のアーティストさんと「もっと三木町を盛り上げたいよね」と話したことでした。

最初は本当に雑談レベルだったんですが、「じゃあイベントをやってみようか」という流れからマルシェを開催することになりました。2024年5月に初めて開催したのですが、農園を始めてまだ1年目で、マルシェ経験もないため、準備は想像以上に苦労しました。

マルシェは1回目から『SMALL TO LARGE』というコンセプトで開催しています。一軒一軒の事業者さんの力はそこまで大きくなくても、みんなで集まってやることで、その力が大きくなっていくといいよね。そんな想いを込めています。(森田)

1回目は三木町の事業者さんだけだったのが、今ではまんのう町や高松市の事業者さんも参加していただいて、朝採れいちごを使ったスイーツや商品が並び、地域の人同士がつながる場にもなっています。マルシェで初めて朝採れいちごを召し上がった方が、後日農園までいちごを買いに来てくれたり、「来年もやってほしい」という声をいただけること、来場者や出店者、関わる人みんなが喜んで笑顔になってくれることが何より嬉しいです。(西浦)



🍓 マルシェを開催するために、どのような工夫をされていますか 🍓

私たちは、地域の方に受け入れてもらえたからこそ、今ここでいちご農家を続けられています。だからこそ、“いちごを通じて地域を元気にすること”で恩返しをしたいと思っています。

例えば、マルシェで地域のお店を知ってもらったり、農園で採れたてのいちごを地域の方に味わってもらったり。これまでマルシェ開催に必要な机やイスなどの備品は、事業者さんのご厚意でお借りしていました。また、警備員や招待したアーティストへの謝礼などもあり、開催のたびに赤字となっていたのが実情です。そこで今年は持続的に開催できる体制を整えるため、クラウドファンディングに挑戦しました。集まった資金をもとに備品を購入し、運営資金として活用することで、マルシェの規模拡大と継続できる体制を整えることにつながりました。(森田)

それに、クラウドファンディングのページは森田が作成してくれたのですが、マルシェを開催する思いや大事にしたいことを言葉として整理し、誰でも見られる形にできたことで、途中から参加した事業者さんとも認識を共有できたかなというところは思ってもいないメリットでした(西浦)

今後も、私たちを含め一緒に関わってくれる事業者さんや地域の方みんなが笑顔になれる形を大切にしていきたいです。(西浦・森田)

これからのみらいいちごの目標を教えてください

よく「今後の目標は？」と聞かれるのですが、実は私たちは数字だけの目標をあまり掲げていません。もちろん経営なので収穫量や売上も大切ですが、それ以上に大切にしたいものがあります。それが、「清潔感」「丁寧さ」、そして「心のバランス」です。私たち自身が元気で笑顔でいられないと、きっと美味しいいちごは作れないと思うんです。(森田)

私たちは前職で営業をしていましたが、いちごに関しては自分たちから売り込むことはあまりしていません。本当に美味しいと思ってもらえれば、その価値は自然と広がっていくと信じていますし、いちごを味わっていただき、その価値を感じてもらえれば、自然と新しいつながりが生まれていくと考えています。営業をして売り込んで、いちごがあるからだけで取引を始めてしまったら、後々お互いがハッピーじゃなくなる時が来ると思うので。

実際、今取引させてもらっている事業者さんについては、紹介やご縁でつながった方ばかりですし、特に飲食店の方と取引する場合は、1回農園に来てもらって、色々とお話をさせていただいて、お店の商品といちごが合うかを必ず確認してもらってます。

結果として、栽培技術も少しずつ上がり、収穫量も毎年増加していますし、マルシェも好評です。だから、無理をしすぎず、自分たちらしく農業もマルシェも続けていきたいです。(西浦)

これからも、地域の方やお客様とのつながりを大切にしながら、「みらいいちごがあつてよかった」と思ってもらえる存在を目指して、人とのつながりを丁寧に育てていきたいですね。(西浦・森田)



～取材を終えて～



移住準備中に温かい支援を受けた三木町への「恩返し」の想いから始動したマルシェ「SMALL TO LARGE」には、個々の事業者は小さくても集まれば大きな力になるという想いが込められていると聞き、いちごを通して、三木町に留まらず香川全体を盛り上げたいという気持ちが強く伝わってきました。

売上などの数字目標を立てず、こころのバランスを掲げていちごに向き合うお二人の姿からはいちごへの大きな愛を感じました。

(首席国有財産鑑定官 遠藤)

今の自分と同じ年齢の頃に新しい挑戦へ踏み出されていることに驚き、自分にはなかなかできないことだと感じるとともに、その勇気や行動力などに多くの刺激を受けました。

また、売上などの数字目標よりも「作り手が心身ともに健康であること」という理念を大切にされている姿がとても素敵で、おふたりの温かい人柄がいちごにも表れ、味や品質だけでなく、その背景にある価値も含めて多くの人に愛されているのだと感じました。

(経済調査課 三木)